

第2期 倫理部会 第7回会合 議事メモ

日時：2020年8月1日

手法：ZOOM

◎コロナを経験して、これまでの議論のまま進めていくかどうかについて

- ・コロナを機に先を見通すことも必要ではないか。
- ・財政もコロナや災害でひっ迫してきている。
- ・コロナを経験して、過去のことは通用しない社会になってきているのではないか。
- ・原点に戻って、「人間を大切にする」といった精神論、メッセージが必要ではないか。
- ・グローバル化した資本主義、科学技術の開発・利用といった人間が手に入れたツールが大きくなりすぎて、コントロール不能になってきた。これをどう、生身の人間が使えるものに戻していくか。また人間の欲望も人としての慎みのようなものがなくなり、それが資本主義や技術との相乗効果で、さらに膨らんできた。だからもう一度精神論で、ということかと思う。
- ・確かにそれも必要だと思うが、それだけでは多くの人は説得できないのではないか。だから、それと併せて前回まで議論したような具体的な方法論も必要ではないか。
- ・コロナで格差がより明確になってきた。
- ・いずれ起きると考えられてきたことが、早く来たということだと思う。

◆市民力

- ・政治が当てはならない中、地域の重要性は増していると思うが、それを支えるのも市民力。市民力とは、雑多な情報からの確かな情報を探し出し、それをもとに考え、皆で議論し、判断し、個人的な行動だけでなく、市民としての行動を起こすことが求められていると思う。日本人の市民力はまだまだ。
- ・何が大事な事か、考え直した方がいい。
- ・日本人の多くは、自分は社会の部品だと思っている。それで満足している。それが日本人の自己認識ではないか。
- ・地域の高齢化が進んでいて、行動する若い人は忙しくて入ってこない。
- ・現在の学生は資格などに関心が高い。人的資本としての価値を高めるといことで、明らかに社会の一員というより、個人に重きを置いている。
- ・判断力や情報選別力などの市民力は、一生涯で学んでいくもの。
- ・政治家の質はその国の市民の質と言われるように、市民力を高めない限り、政治も良くならないのではないか。
- ・市民力がないわけではないのではないか。災害時のボランティアなどには関心がある。
- ・それがいつでも、どこでも、誰でも、にならないと、社会全体の市民力は上がらないのでは。
- ・GDPが社会を図る一般的な指標になって、それを上げるために皆動いている。それに代わる指標がないことも問題ではないか。

◆トリアージ～環境問題に当てはめると

- ・これは、いのちの価値づけになるのではないか。
- ・いのちの価値づけではなく、一番多くの命を救うにはどうしたらいいか、ということだ
と思う。
- ・環境の危機にある中で、有限な地球環境・資源を、今後どう考えていけばいいかに通じ
る。公平に順番に分配するという方法もあるが、環境倫理（世代間、途上国との関係、
生物との関係）の順位付け、守るべき順位があるかどうかという議論も必要。
- ・様々な限界がある中で、厳しい選択を迫られてくるだろう。

◆精神論だけでいいか

- ・すべての人が同じ価値観を持つわけではない。全てが同じでなくても、合意できる部分
が何かを示していくことはできないか
- ・人の命は大切、という点では、多くの人が同意するだろうし、福祉や医療などが大切と
いう点でも合意が得やすい。しかし命の基盤である環境には目が向かないというのが、
これまでの経緯
- ・精神論だけだと、総論賛成も各論反対、ということになりかねないのではないか。